

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600343		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム山法師		
所在地	苫小牧市日吉町1丁目2番23号		
自己評価作成日	令和5年10月1日	評価結果市町村受理日	令和5年11月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0193600343-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・コロナにて3年も継続的に感染対策を強いられてきた中、入居者様の行動も少しずつ緩和されてきました。少しでも穏やかに安心して日常生活を送って頂ける様に日々スタッフ一同取り組みを行っています。
 ・毎日のレクリエーション活動、個人個人に合った個別支援、感染対策をしっかりとした行い入居者様とスタッフでお食事作りや、オヤツ作り、お掃除等、生きがいのある生活を送れるよう心掛けて支援させて頂いています。
 ・コロナが、5類に変わりましたが、感染リスクもある為、対策を行いながらご家族様と時間を決め面会、メールブログ等を活用し日々の生活をお知らせさせて頂いております。
 ・少しずつ外出も出来ています。町内会との交流も再開しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和5年10月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

太平洋の眺望と樽前山が背景にあり、ドラッグストア等の商業施設に程近く、緑豊かな公園も隣接し季節の移り変わりが楽しめる環境に位置する2ユニットの事業所で開設12年目を迎えている。地域との相互交流が再開されており、地域のアレンジメントフラワーの集いに利用者が参加したり、事業所敬老会は町内会役員や家族も参加し、太鼓や婦人会による舞踊の披露もあり、盛大な祝賀の会が催された。また、個別外出では、ショッピングモール、ドラッグストア、洋品店へ買い物に出かけ、夕方ぶりのショッピングを思う存分満喫している。事業所内での夏祭りには、浴衣を着用するなどして雰囲気を楽しむ、屋台メニューや縁日風のゲームで盛り上がった。食の支援では、行事の際に好みの弁当をテイクアウトしたり、きのご釜飯弁当や祝い日以外にも食べたいリクエスト1番人気の甘納豆赤飯が度々食卓に上っている。家族からの差し入れも多く、利用者へのほのぼのとした食の提供につながっている。特定技能外国人2名が職員として勤務しており、明るさと傾聴する姿勢で利用者にも喜ばれ、一緒に体操やレクリエーションをしたり、利用者が日本の事を教えるなど、本人と共に過ごし支え合う関係が築かれている。介護計画は利用者の暮らしのためのものとなるよう、意見を出し合い記入できる検討シートを用いるなどして精度を高めているのも特徴である。家族や地域住民と協力し合い、利用者の生きがいとなる生活支援に向け、心を込めて取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼後に施設の理念を唱和し理念に基づいたケアを提供しています。	理念はパンフレットに明示し、事業所内要所へ掲示している。毎日、朝礼時に唱和し全体会議であらためて理念を確認したり、介護計画を作成する際には理念を意識するなど、事業所全体でサービス提供の拠り所としその実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染対策を行い古紙回収、外部清掃等の参加協力をしています。近隣から寄付のおむつや、ウェス等を貰っています。	地域との相互交流が再開され、地域のアレンジメントフラワーに利用者が参加したり、婦人会の方々が事業所敬老会に踊りの披露で訪れ、また、花壇や畑の手入れも協力が得られている。次回避難訓練の際に町内会関係者が参加する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	情報の共有化等での交流を図っています。(町内会婦人会等)		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度から、運営推進会議が事業所と関係各位の皆様と開催が出来ており、議事録を送付している。	運営推進会議は、町内会関係者や地域包括支援センター、市担当者、家族の参加を得て、地域福祉会館にて開催している。運営状況の報告や出席者からの情報提供、家族からも沢山の意見を得ており、今後のより良い取り組みに資する会議の場となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	感染対策をしながら地域包括支援センター主催のケア会議に参加し協力機関との構築に取り組んでいます。	市の各担当部署へは管理者が直接、届け出書類の提出等で出向き、指導や助言を得たり、成年後見制度に係る案件で連携を図るなど、適正な運営の維持、向上に向け協働関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、不適切ケア委員会が設置されており1.2階フロアに委員が配置され研修会や会議の際、常に注意喚起しケアに取り組んでいます。防犯上の本社規定によりご家族様に同意を取り玄関は施錠を行っている。	身体拘束等の適正化のための指針、不適切ケア防止委員会要綱を定め、不適切ケア(身体拘束・虐待)防止委員会とこれらに係る内部研修を定期開催している。今年度は、利用者の尊厳、身体拘束をすることによる弊害について学んでいる。玄関は防犯上の理由により昼夜施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し研修を行い毎朝、申し送りでも注意喚起している。		

ふれあいの里グループホーム山法師

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状、成年後見制度の利用者様もあり、地域包括支援センター主催のケア会議でも関わりを持っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約時、ご家族様に契約書、重要事項説明書、運営規定などの説明を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様や、知人との面会やブログ、通信やラインメール、職員からご家族様へのお手紙、ショート面会等でご意見やご要望が反映されやすい方法を構築し活動している。	利用者からの意見では外に出たいとの主張が多く、散歩や少人数グループにて買い物に出かけるなどして反映させている。家族からは、本人の生活の様子や今後の暮らしについて問い合わせや相談があり、その都度、一緒に話し合うなど対応に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ過、感染対策を講じ定期的なユニット会議、個別面談の実施、ハラスメント防止に努めている。	年1~2回及び必要時に管理者が職員面談を行い、意見等を聞いている。月1回、ユニット単位の全体会議を開催し、業務事項や利用者カンファレンス、事案等を提示し協議している。朝の引き継ぎの際も必要な意見交換や共有事項を確認している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として、全職員に対し資格支援制度を設けスキルアップに繋がる機会が与えられている。働き方改革により勤務時間帯も多種に設けられている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の能力や経験値を考慮し研修参加や得意分野にて仕事での経験値を発揮出来るように図っている。Eラーニングの実施も随時行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染対策を講じ、GH協会主催の研修会や関係機関の研修会に参加しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が入居前に見学や面談時、ご本人あるいはご家族様から生活歴をお聞きしてフェイスシートの作成、活用にてニーズを伺い計画作成担当者、スタッフ一同で情報共有を図り関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様、ご本人様が1番困っている事や不安に思っている事に耳を傾けご家族様との関係づくりに努め可能な限りご要望にも応えていけるよう心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にお渡ししているフェイスシートを活用しアセスメントし、入居者様の必要なニーズを再検討し支援に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の尊厳を守り出来る事を見極めながら必要なニーズを再検討し寄り添い支援することに努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ラインメールにて動画、写真をご家族様の了解を得て送ったり通信やブログなどで生活の様子を伝えていきます。普段のご様子が見られて嬉しいとご家族様からお声を頂いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は予約にて、感染対策を講じ、お電話を頂いたりリモート面会なども活用してお手紙のやり取りも支援しています。	時間の制限はあるが、居室での家族面会が可能になった。家族等からの電話を取り次いだ際は、自室でゆっくり会話できるようにしている。感染症流行以前に出かけていたショッピングモール等への買い物外出支援を再開し喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食席の配置やレクリエーション活動等、入居者様同士が楽しく交流出来る様に努めています。個別支援も行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了されたご家族様へ季節の変わり目にお便りを差し上げたりお電話を頂きご紹介をしていただいたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様のお気持ちに沿うように職員全体会議などで意見交換をしたりご家族様とも相談をしています。	「困っている事(利用者・職員)・どうなってほしいか・そのための改善案」シートも活用し、訴えや意向等の情報を収集している。内容は毎月のカンファレンスで共有すると共に、家族と相談しつつ検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様のお気持ちに沿うように職員全体会議などで意見交換をしたりご家族様とも相談をしています。生活歴を大切にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕の申し送りで情報の共有化を図り介護記録に記録し介護計画の見直しや改善に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活状況を把握してカンファレンスを行いご本人、ご家族様の意向を大切に意見交換しご本人に沿った介護計画を作成しています。	毎月のケアカンファレンスで利用者全員の日常生活等をモニタリングし、居室担当者が定期評価に取り組んでいる。アセスメントも新たな計画作成前に取り直し分析している。関係者間の意向等を反映させ、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	システムに日々の記録を入力し職員間で情報共有をしています。閲覧後チェックして全体で把握しており、支援経過にも活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様、ご家族様の現状把握をし個々のニーズ対応に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前の様に近隣との文化交流や、近隣の公園の清掃美化活動や施設から出る古紙の資源再利用に努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診にて医師、看護師と連携を図り、医療連携している病院での医療連携室との連携もあり検査等の助言を受けています。訪問歯科、訪問皮膚科、訪問看護。	月1回、協力医療機関の内科・歯科と皮膚科の訪問診療、2週に1度、医療連携で訪問看護の健康管理支援の体制を整え、それぞれ必要時の協力が得られている。利用開始前のかかりつけ医へは家族対応の協力が得られ、受診前後の情報共有を密にしている。	

ふれあいの里グループホーム山法師

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携室の看護師長が月に2回訪問対応にて、入居者様の健康状況を把握し情報共有をし受診の必要性や助言を行ってくださっています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様が安心して入院生活を送れるように介護添書を作成し、入院先の医療機関と連携し情報交換を密に行い早期退院に向け協力をしています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応にかかる指針に沿ってご家族様と相談しており、かかりつけ医や他機関とも連携をし、方針の共有化に努めています。	「ご利用様が重度化した場合の対応に係る指針」に基づき、利用契約時に家族へ説明し同意を得ている。看取り支援は行っておらず、医師の判断や意見に基づき、家族等と話し合い今後の方針を定めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	赤十字救急法救急員の資格を保有する職員がおりAED使用法の習得もされている。今後も他の職員が習得できるよう努めると共に訓練を行います。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回必ず総合訓練を行っているがコロナ過の為、近隣のかたの参加には至っていない。	昨年度は地震津波・夜間想定、火災・日中想定避難訓練を実施し、今年5月火災・日中想定避難訓練では利用者への事前予告無しで実施した。地域協力者、災害備蓄品を確保し、自然災害発生時における業務継続計画を策定している。	指定収容避難場所までの避難のあり方や見解について、あらためて運営推進会議で話し合う事としているので、その実施に期待したい	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当施設の理念でもある尊厳を重視し、ご本人の人格を尊重しプライバシーを守るよう対応に努めています。	理念に則り、尊厳を大切に支援に努めている。穏やかに落ち着いて過ごせるよう丁寧な言葉かけを心がけている。個人記録はタブレットに入力し他の書類も管理場所を取り決め保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の自己決定を重んじ常日頃から生活の中で思いを伝えて頂ける様にお声がけを大切にしています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の個々の生活のペースを大切にして、業務優先ではなく自己決定出来るようにお声掛けしています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月の訪問美容に加えて、職員がヘアトリートメントを行ったりお買物援助にて化粧品他の支援を行っています。			

ふれあいの里グループホーム山法師

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お肉が苦手であったり利用者様一人ひとりの嗜好に合わせてメニューを変更したり、利用者様と一緒に調理や食器洗いをしながら会話を楽しむ機会を設けています。	献立の副菜をアレンジして提供したり、行事メニューでは好みの料理やテイクアウト弁当を事前に選んでもらい楽しみが増すようにしている。夏祭りでは屋台風に設え賑わう食卓となった。季節の果物や甘物のお裾分けも加わり、おやつ時間も楽しいひと時となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮したうえで、利用者様一人ひとりの摂取状態に合わせ、食材を刻んだり、盛り付ける食器を変えたりしながら提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科往診にて衛生指導も受けており毎日の義歯の洗浄や、ブラッシング介助が必要な利用者様に対しては、職員がお手伝いしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況に応じ、尿意や便意の感じにくい方に対しては2~3時間おきにお声がけをしてお手洗いへお誘いしています。	排泄記録、水分食事量の記録を確認し、個々のサイクルやタイミングを見計い、スムーズな排泄誘導に努め全員トイレで排泄している。夜間頻尿でふらつきが見受けられる利用者へはポータブルトイレを使用し、安心感で頻尿症状が治った事例がある。排泄後に尿・便を指サインし職員へ知らせる利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分に関しては水分チェックを実施し、ミルクティーやカフェオレにしたり味付けが飽きないように工夫しています。また、毎日の体操や運動の働きかけを無理の無い範囲で行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様のその日の体調や、お話がしたかったりゆっくり入りたい気持ちに配慮しつつリラックス出来るように入浴環境作りに努めています。	午前午後を固定せず入浴可能で、身体状況に応じ、職員2人で介助する場合もある。全員が湯船に浸かっており、アロマの日、バスボブの日、温泉の日、柑橘の日と、多種の入浴剤を使用して趣向を凝らし、気分よく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の灯りや、休む時間に合わせて心地よく休息していただけるよう支援を行っています。また、今の季節は入居者様のお部屋に加湿器を設置し、乾燥を防いでいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局に服薬指導と定期薬の管理と補充をして頂いています。与薬に関しては職員が適切な順序を守り確実に服用していただける様に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様個々のお好みに合わせた支援を行うことが出来る様にレクリエーション活動や施設内の季節行事やお誕生会に力を入れています。		

ふれあいの里グループホーム山法師

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策を前提として個別支援で少人数でのお散歩を行っています。また近隣のスーパーにもお買い物に出かけています。	感染症が5類に移行し、積極的に戸外に出かけている。散歩で近隣住民の花壇を見学したり、散歩が難しい方は玄関前で外気浴している。個別外出で衣服や化粧品等の買い物にショッピングモールやドラッグストアなどへ出かけている。この冬は玄関先の雪かき参加も検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様了承済みで少額のお金を自身で所持している利用者様はいらっしゃるが、現状外でお金を使う機会は見られていません。重要事項説明書でもご家族様に伝達しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月の通信と一緒に、利用者様の普段の様子や支援状況を記したお手紙を送っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の移り変わりを目で感じて頂けるよう玄関や館内のディスプレイを飾っています。利用者様からも「もうそんな時期！素敵ね～」という言葉を頂いたり、笑顔を見せて下さっています。	共有空間はテーブルやソファの配置を工夫し、コーナーを4か所設け、好みの場所で寛げるようにしている。何時でも自由にコーヒー等が飲める場所もある。季節飾りや行事の写真などをコーラージュアート風に掲示し、利用者さんに人気である。洗面台横の手を拭く使い捨て紙を一時的に中止しているが、希望者は職員へ等の貼り紙をし、知らせる事を大切にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングから少し隠れる位置に椅子とテーブルを配置し、利用者様同士が気兼ねなくお茶やお話を楽しめる様な空間づくりをしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に利用者様の馴染みのある家具や食器など、ご自身が安心できるものを持ち込み使用して頂いています。	居室入り口には自室と分かる飾り付けがある。クローゼットの備え付けがあり、床暖を設備している。自宅で使い慣れた好みの家具や調度品を持ち込み、壁面に写真や好みの物を掲示している。身体状況の変化に合わせて設えをサポートしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の安全を考慮したうえで、目につきやすい位置に時計を、一目で日付のわかる日めくりカレンダーを一部利用者様の居室や館内に配置しています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600343		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム山法師		
所在地	苫小牧市日吉町1丁目2番23号		
自己評価作成日	令和5年10月1日	評価結果市町村受理日	令和5年11月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsvoCd=0193600343-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・コロナにて3年も継続的に感染対策を強いられてきた中、入居者様の行動も少しずつ緩和されてきました。
 少しでも穏やかに安心して日常生活を送って頂ける様に日々スタッフ一同取り組みを行っています。
 ・毎日のレクリエーション活動、個人個人に合った個別支援、感染対策をしっかりとした行い入居者様とスタッフでお食事作りや、オヤツ作り、お掃除等、生きがいのある生活を送れるよう心掛けて支援させて頂いています。
 ・コロナが、5類に変わりましたが、感染リスクもある為、対策を行いながらご家族様と時間を決め面会、メールブログ等を活用し日々の生活をお知らせさせて頂いております。
 ・少しずつ外出も出来ています。町内会との交流も再開しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○			○	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼後に施設の理念を唱和し理念に基づいたケアを提供しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染対策を行い古紙回収、外部清掃等の参加協力		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染対策を講じ、情報の共有化等での交流を図っています。(町内会婦人部会等)		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より、運営推進会議を開催し関係各位の皆様、ご家族様に参加頂き議事録を送付している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	感染対策をしながら地域包括支援センター主催のケア会議に参加し協力機関との構築に取り組んでいます。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、不適切ケア委員会が設置されており1.2階フロアに委員が配置され研修会や会議の際、常に注意喚起しケアに取り組んでいます。防犯上の本社規定によりご家族様に同意を取り玄関は施錠を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い職員一同防止に努めている。管理者からも毎朝の申し送りで徹底周知をしている。		

ふれあいの里グループホーム山法師

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状、成年後見制度の利用者様もあり、地域包括支援センター主催のケア会議でも関わりを持っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約時、ご家族様に契約書、重要事項説明書、運営規定などの説明を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ過の為、リモート面会やブログ、通信やラインメール、職員からご家族様へのお手紙、ショート面会等でご意見やご要望が反映されやすい方法を構築し活動している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	感染対策を講じ定期的なユニット会議、個別面談の実施、ハラスメント防止に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として、全職員に対し資格支援制度を設けスキルアップに繋がる機会が与えられている。働き方改革により勤務時間帯も多種に設けられている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の能力や経験値を考慮し研修参加や得意分野にて仕事での経験値を発揮出来るように図っている。Eーランニングの実施も随時行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染対策を講じ、GH協会主催の研修会や関係機関の研修会に参加しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が入居前に見学や面談時、ご本人あるいはご家族様から生活歴をお聞きしてフェイスシートの作成、活用にてニーズを伺い計画作成担当者、スタッフ一同で情報共有を図り関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様、ご本人様が1番困っている事や不安に思っている事に耳を傾けご家族様との関係づくりに努め可能な限りご要望にも応えていけるよう心掛けています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にお渡ししているフェイスシートを活用しアセスメントし、入居者様の必要なニーズを再検討し支援に努めています。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で寄り添い傾聴対応や会話を大切にしています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の通信にご家族様宛てに職員のお手紙を添えて近況をお伝えしている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は予約にて、感染対策を講じ、お電話を頂いたりリモート面会なども活用してお手紙のやり取りも支援しています。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がトラブルにならないように見守り支援に努めています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了されたご家族様へ季節の変わり目にお便りを差し上げたりお電話を頂きご紹介をしていただいたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活から思いや思考を汲み取り尊重し支援に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様のお気持ちに沿うように職員全体会議などで意見交換をしたりご家族様とも相談をしています。生活歴を大切にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送りや、夕方の引継ぎで皆様のその日の身体の状況や過ごされ方を把握しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様やご本人の意向を聞き取り尊重しスタッフ間で連携しあい担当者会議などで話し合い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	システムに日々の記録を入力し職員間で情報共有をしています。閲覧後チェックして全体で把握しており、支援経過にも活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様、ご家族様の現状把握をし個々のニーズ対応に努めています。往診なども取り入れてご本人、ご家族様の負担を軽減する対応など。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前の様に近隣との文化交流や、近隣の公園のゴミ拾いや施設から出る古紙の資源再利用に努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診にて医師、看護師と連携を図り、医療連携している病院での医療連携室との連携もあり検査等の助言を受けています。訪問歯科、訪問皮膚科、訪問看護。		

ふれあいの里グループホーム山法師

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携室の看護師長が月に2回訪問対応にて、入居者様の健康状況を把握し情報共有をし受診の必要性や助言を行ってくださっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様が安心して入院生活を送れるように介護添書を作成し、入院先の医療機関と連携し情報交換を密に行い早期退院に向け協力をしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応にかかる指針に沿ってご家族様と相談しており、かかりつけ医や他機関とも連携をし、方針の共有化に努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	赤十字救急法救急員の資格を保有する職員がおりAED使用法の習得もされている。今後も他の職員が習得できるよう努めると共に訓練を行います。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回必ず総合訓練を行っているがコロナ過の為、近隣のかたの参加には至っていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当施設の理念でもある尊厳を重視し、ご本人の人格を尊重しプライバシーを守るよう対応に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴を心掛けて、入居者様が遠慮なく心地よくお暮しになれる様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションなどでは集団で行われる他、体調を考慮し一人ひとりのタイミングに合わせての個別支援も行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時のメイクやブラッシングなどお声掛けしお洋服のエントリーも伺い支援に努めています。		

ふれあいの里グループホーム山法師

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	キザミ食への支援や利用者様一人ひとりの嗜好に合わせてメニューを変更したり、利用者様と一緒に調理や食器洗いをしながら会話を楽しむ機会を設けています。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮したうえで、利用者様一人ひとりの摂取状態に合わせ、食材を刻んだり、盛り付ける食器を変えたりしながら提供しています。水分は都度確認しています			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科往診にて衛生指導も受けており毎日の義歯の洗浄や、ブラッシング介助が必要な利用者様に対しては、職員がお手伝いしています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	起床時、お食事の前後など、お声掛けやご本人のタイミングなどもお聞きしながら誘導対応を行っています。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況に応じ、尿意や便意の感じにくい方に対しては2～3時間おきにお声かけをしてお手洗いへお誘いしています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は入浴剤を使用して体を温めています。ご本人がリラックスして入られるよう配慮しています。が希望時間は対応できていません。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の灯りは段階的の灯りを選べる物を使っています。休む時間に合わせて心地よく休息していただけるよう支援を行っています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局に服薬指導と定期薬の管理と補充をして頂いています。与薬に関しては職員が適切な順序を守り確実に服用していただける様に努めています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様個々のお好みに合わせた支援を行うことが出来る様にレクリエーション活動や施設内の季節行事やお誕生会に力を入れています。			

ふれあいの里グループホーム山法師

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状コロナ禍の為、自粛対応としていますが感染対策を前提として個別支援で少人数でのお散歩やお花見を行っています。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様了承済みで少額のお金を自身で所持している利用者様はいらっしゃるが、現状外でお金を使う機会は見られていません。重要事項説明書でもご家族様に伝達しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月の通信と一緒に、利用者様の普段の様子や支援状況を記したお手紙を送っています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の移り変わりを目で感じて頂けるよう玄関や館内のディスプレイを飾っています。利用者様からも「もうそんな時期！素敵ね～」というお言葉を頂いたり、笑顔を見せて下さっています。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングから少し隠れる位置に椅子とテーブルを配置し、利用者様同士が気兼ねなくお茶やお話を楽しめる様な空間づくりをしています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に利用者様の馴染みのある家具や食器など、ご自身が安心できるものを持ち込み使用して頂いています。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の安全を考慮したうえで、目につきやすい位置に時計を、一目で日付のわかる日めくりカレンダーを一部利用者様の居室や館内に配置しています。			

目標達成計画

事業所名 グループホーム山法師

作成日：令和 5年 11月 7日

市町村受理日：令和 5年 11月 7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年に2回、避難訓練を実施しているが、近くに高層ビルが無く、津波の際、所定の避難所までの手立てがななく現実的では無い。	入居者を安全な場所に避難させる。	運営推進会議にて、市役所や包括センター、町内会役員の方々と議案を検討する。	1ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。